

【国語】

- 教科全体の平均正答率（％）が全国、都よりも上回った。
- 「読むこと」の領域では、資料の説明として適切な物を選択する問題が80%の正答率であった。
文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する思考力が高いことが分かる。反面、文章の中から目的に応じて必要な情報を見付けたり、文章を要約したりする問題は、正答率が50%を下回った。目的を意識して必要な語や文を見付け出し、文章をまとめる学習に取り組んでいく。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、全国・都とほぼ同じ平均正答率であった。特に、目的や意図に応じ、資料を使って話す問題の正答率が高かった。
- ▲「書くこと」の領域では、平均正答率が全国を下回った。特に、文章中の語句を用いて詳しく書き直す問題では、50%台の正答率であった。さらに、無回答率が15%あり、苦手意識があると考えられる。日々の学習の中で、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き方を工夫する活動を取り入れ、表現力を伸ばしていく。
- ▲話し手の意図を捉えて聞き、自分の考えをまとめる問題は全国・都の平均正答率を下回り、無回答も19%と多かった。多様な考えを受け入れ自分の考えを再考することには課題がある。話を聞く姿勢はしっかり身に付いているため、自分の考えと比較しながら考えを深めたり広めたりすることができるような活動を増やしていく。
- ▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国・都の平均正答率を上回っている。しかし、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題については、無回答率が13%あった。学年に関わらず漢字学習を丁寧に繰り返し指導する必要がある。また、修飾と被修飾の関係を捉える問題では、全国・都とほぼ同じ平均正答率であったが、本校は、40%台であった。文章の中で修飾と被修飾の関係を捉えることができる力を付けていく。

【算数】

- ▲教科全体の平均正答率は、全国・都の平均正答率を数ポイント下回った。
- 「数と計算」の領域では、全国・都の平均正答率を下回っているが、除法の商と余りを基に考える問題は80%を超える正答率であった。除法の結果から場面に即して判断する力が定着できている。
- ▲「図形」の領域では、複数図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や加法性を基に考察する問題は、全国を上回る正答率であった。しかし、図形を構成する要素に着目して求積する問題については、30%台の正答率であった。平面図形の面積に関わる数学的活動を通して計算による面積の求め方の理解を深め、筋道を立てて考察し表現できるように指導していく。自分の考えを分かりやすくノートに書いたり、筋道を立てて説明したりする技能を伸ばしていく。
- ▲「測定」の領域では、全国とほぼ同等の平均正答率であったが、東京都より3ポイント下回った。特に、道のりの差を求める問題では、平均正答率が56.7%とやや低く、全国・東京都よりも下回った。日常の事象から必要な数量や関係を捉え図や式に表すことができるようにするために、具体的な場面から事柄や関係を式に表し、数学的に処理する能力を身に付けていく。
- ▲「変化と関係」の領域では、全国とほぼ同等の平均正答率であったが、東京都より3ポイント下

回った。しかし、問題別にみると「速さ」の問題では 90%近い平均正答率であったことから、二つの数量の関係に着目し考察することはできている。さらに、速さを求める除法の式と商の理解を深めていきたい。

- ▲「データの活用」の領域では、全国とほぼ同等の平均正答率であった。特に、棒グラフの読み取りはよく理解できている。反面、複数のグラフを比較し記述する問題は正答率が低かった。データの分析に関わる学習活動を通して、データの特徴や傾向を捉えることができるように繰り返し指導していく。